

2021 年度 自己評価報告書

星稜高等学校

具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
教務課			
業務の効率化をさらに進める。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	概ね ICT 化が進んでおり、業務の効率化が図られている。教務システムの稼働も一部で始まり、本格的な稼働に向けて準備を進めている段階である。
ミスが起こらない環境づくり、システム運用を行う。また、情報共有を確実にし、仕事の無駄をなくす。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	例年通り一定数の入力ミスは発生した。来年度システムの変更があるので、使用方法の共有をしっかりとし、大きなミスが出ないようにしていきたい。情報共有に関しては問題なく行えたと考える。
新学習指導要領の改訂に伴い、それに対応する学習評価方法を構築する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	来年度から始まる学習評価について、生徒にも教員にもわかりやすく、有意義な方法を、意見交換をしながら模索してきた。運用しながら、改善点があれば引き続き検討を重ねていく。
進路指導課			
生徒、保護者の進路希望を把握し、正確な進学情報を共有できる環境を整える。説明会等に積極的に参加し、各学年・コースに応じた最新の進学・入試情報を得て、教職員と共有できるようにする。	満足度指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	D	学校評価アンケート「入試情報などの進学指導に必要な情報は、生徒のみならず保護者に対しても十分に提供されている」の集計結果より、「当てはまる」および「どちらかと言えば当てはまる」が全校平均で 58%であった。校内 Web 連絡システムを活用し、教職員に正確な進路情報を迅速に伝えけるとともに、Classi を用いて保護者に直接情報を発信していきたい。
生徒、保護者の進路希望が実現するように努力する。難関国立大学、難関私立大学、医学部医学科、地元国公立大学の合格者数を増やす。	成果指標 A：3 項目以上が増加 B：2 項目が増加 C：1 項目が増加 D：4 項目が減少	A	3 月 14 日現在、難関国立 10 大学 1 名→9 名、難関私立 13 大学 117 名→161 名、医学部医学科 3 名→10 名、地元国公立大学 63 名→76 名である。4 年連続で国公立大学医学部医学科 2 名以上合格を来年度も継続したい。
生徒、保護者の進路希望で最も多い国公立大学の合格者数が増えるように努力する。現役での国公立大学合格者 150 名以上を目標とする。	成果指標 A：150 名以上 B：100 名以上 C：50 名以上 D：50 名未満	B	3 月 14 日現在、現役生の国公立大学合格者数は 111 名である。共通テストで高得点を取るための指導に加えて、早期に記述力の向上が見込める仕組みづくりをしていきたい。後期日程試験まで受験するような最後まであきらめない生徒へのサポートを継続していく。
生徒指導課			
あいさつ運動を更に推進することにより生徒の自発的な挨拶を促し、教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。	努力指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果による自己評価とは別に、マスク着用の影響による消極的な様子も見受けられ、自発的に挨拶がまだまだ難しい現状もあり。個々の生徒があいさつをさらに自然とできる運動を進めて行くことが必要。
通学マナーを向上させながら、地域に貢献できる指導を目指す。	努力指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果ではよい結果だが、感染予防のマスク装着や自転車通学者や公共交通機関を利用する生徒のマナーに関しての苦情の連絡がたびたびあった。常にマナーを意識する指導が必要。

具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
総務課			
学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないよう各学年・課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 ＊入学前オリエンテーション ＊入学式 ＊後援会総会 ＊保護者対象説明会 ＊保護者懇談会 ＊推薦入試・一般入試 ＊専願合格者説明会 ＊卒業式 ＊入学説明会 ＊机・椅子の移動	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	コロナにより、後援会総会や学校見学会等が中止になることもありましたが、他の行事は概ね良好に実施できた。多くの教員の協力があり、無事に行事が実施できた。12月から翌年4月まで重要な行事が続きますが、余裕を持って準備し、円滑に実施できるようにする。
特活課			
生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	生徒会活動では、生徒が主体的に計画するのが難しい状況だったが、執行部の生徒が自ら企画したノーチャイムデーなど新たな取り組みを行うことができた。委員会活動も、制限がある中で安全に行える活動を実施した。また、昼休みの放送を利用した生徒会活動も2年目となり、生徒の学校生活の一部となってきた。
各部がそれぞれの目標を設定し、目標に向かって努力できる環境を整える。部活動加入率70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。	成果指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	A	今年度6月時点での部活動加入率は77.4%で、昨年度75.1%より向上し目標としていた70%を超える結果となった。新入生を対象に部活動のPRを効果的に行うと共に、各部が大会等の目標設定とプロセスを大切にすることで、より魅力的な活動となるように支援したい。
自己の健康課題について認識させ、個別の保健指導を実施する。視力・聴力及び歯科検診の受診率向上を目指し、保健だよりにクラス毎の受診率を掲載する等、受診意識向上に繋げていく。	成果指標 A：50%以上 B：45%以上 C：40%以上 D：40%未満	B	各検診の受診率は検尿80%、内科・胸部X線・心臓検診100%、歯科検診30%、視力/聴力65%となり、視力/聴力の受診率は昨年度より8%向上し、歯科検診及び視力/聴力の受診率は47.5%となった。来年度は保健だよりによりクラス別受診率を掲載し受診意識の向上に繋げたい。
広報課			
“GROW! SEIRYO”の教育スローガンのもと、中高一貫理数コース、ICT教育、GSP等の取り組みや、昨年度よりスタートしたWeb出願や推薦入試の更なる周知に加え、中高総合寮『GROW DORM』の完成を、アニメーションによるTVCMを活用して、県外の方々にも広く親しみを持って受け止めていただき、ハード面もソフト面も進化し続ける星稜の今をタイムリーに伝え、北陸私学の雄としてのブランディングを確固たるものとする。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	初めて50%を超えた専願入学率について、様々な媒体を通じ広く訴求できた。オンライン説明会用に動画を4本完成させ、YouTube上での広報活動に取り組みつつ、中学広報部や進路指導課との連携で、限定公開という形式でYouTubeの校内運用を活性化できた。Webサイト運営では、個性溢れる生徒の活躍を取り上げ、生徒間で新たな盛り上がりを見せるなど、内部広報の充実にも寄与できた。新しいアニメCMを3月末にも完成させ、次年度におけるTV放送を節目に『総合寮を備えた一貫校としての新しい星稜を周知する』という課題を完全にクリアできると自負している。今後は、総務広報課の広報部門に向け無理のない引き継ぎを進めていく。
《次年度における校務改善に向けて》 働き方改革を進める中で、それぞれの立場の教職員がワーク・ライフ・バランスを無理なく実現できるよう、業務内容を抜本的に見直し、校務分掌を大幅に再編しているところである。各部署における業務の効率性及び学校法人としての収益性を高めつつも、公立校には見られない独自性あふれる形で更なる教育力の向上を目指し、次年度からスタートすることになる、3観点による新しい学習指導と評価に向けて、意欲的に取り組んでいきたい。			